

# 奈良市公民館運営審議会会議録

令和6年2月7日会議

## 令和5年度第2回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	令和6年2月7日(水) 午前10時00分から午前12時00分まで	
開催場所	はぐくみセンター 8階 コミュニケーションプラザ	
議 題 又は 案 件	1 令和5年度公民館事業の実施状況について 2 令和5年度公民館大会についての報告 ・奈良県公民館大会 令和5年10月31日 (第70回奈良県公民館大会及び第34回奈良県社会教育研究大会合同大会) ・全国公民館研究集会 令和5年11月24日 (第45回全国公民館研究集会兵庫大会・第70回近畿公民館大会兵庫大会)	
出席者	委員	東委員、虎杖委員、今西委員、奥村委員、杉山委員、橋本委員、福西委員、伏浦委員、森委員、吉岡委員 【計10人出席】
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局統括主任
開催形態	公開(傍聴人4人)	
担当課	教育部 地域教育課	
<b>議事の内容</b>  <b>○教育長挨拶</b>  <b>○会議録の署名について</b> 議長から今回の署名委員の指名及び確認(福西委員と吉岡委員)。		
<b>○事務局からの報告について</b> 事務局より、令和5年度の第1回公民館運営審議会でご説明させていただいた、新たな社会教育、生涯学習と地域の拠点づくりの案について、つぎのとおり報告を行った。 市民の方々や、公民館利用者の方々より、現公民館の存続を求める声や、教育施設でなくなることで社会教育、生涯学習が後退するのではないかな等の様々なご意見をいただいた。9月議会や観光文教委員会でも質疑応答を重ね、令和5年の12月議会で地域ふれあい会館へ公民館機能を移行する案は撤回することとなった。今後は施策を進めるにあたって、公民館利用者や地域の皆さんに不安を与えることのないよう、今以上に多くの方や、専門家の方々の意見を伺う機会を設けることを検討し、より活発なご意見をいただけるように工夫していきたいと考えている。市民の皆様にとってより良いものとなるように丁寧な調整、協議をしていきたい。		

【質問・意見等】 ♪:意見 ◆:質問 ♫:回答

委員 ◆ 利用者の皆さん、市民の皆さんに不安を与えることのないようにご配慮いただきながら、より議論を活発に進めていけたらと思う。今後、公民館の在り方を考えていくうえで、議論の進め方については非常に大事なポイント。この点の認識について聞かせていただきたい。

事務局 ♫ 具体的にこういう形でということを含め切れしていない。今後の公民館運営審議会の場合や、社会教育委員会では、議論できるようなテーマをはっきりと提示し、より意見を求められる形をとらせていただけたらと考えている。また、専門的なご意見や知識をご紹介いただけたら、我々としてもそれを参考に案を練り直した形でまた提示させていただくような、繰り返しができると考えている。

委員 ♪ 公民館の在り方について、奈良市の公民館の守るべきものは守り、変えていくべきものは変わっていかないと認識している。ただ、議論の進め方については、利用者のみなさんの声や、まだ公民館を使われていない方々の声というのが非常に大事。公民館運営審議会は任意設置だが、幸い、奈良市の場合は、このようにずっと設置いただいているという点は非常に大事なポイントだと思う。しかし、24館それぞれの地区の特性であったり、利用者層がさまざまあるところで、それぞれの地区の方々の声をうまく拾い上げながら、公民館の在り方を問うということ自体が、非常に大事な民主主義のプロセスだと思う。社会教育を作っていく大事なプロセスになっていくと思うので、ぜひ多くの方々と議論を重ねていくような進め方について、検討いただきたい。委員の皆さんからも様々な知恵や工夫を市に集約しながら、この問題について引き続きこの議論を止めずに、定義自体は間違っていないと思うので、しっかりと市全体、市民の皆さんと一緒に考えていくというプロセスをぜひとも歩んでいけるよう、これから何かできることがあればと思う。

委員 ◆ 行政側では、今後の公民館の在り方についての委員会の設置はないということよろしいか。

事務局 ♫ 今後そういう形を作るかどうかという具体的な案はまだ持っていない。すでに動いているということも今はない。

委員 ♪ これからの公民館の在り方については、もちろん公民館運営審議会というのが重要な立場になってくると思う。継続して審議があるようであれば、公民館運営審議会でも検討の案を出していただければと思う。

## ○【案件1】 令和5年度公民館事業の実施状況について

- 令和5年度公民館事業の実施状況及び利用状況について

生涯学習財団事務局より、つぎのとおり説明を行った。

令和5年4月から12月までは 26,730 件・351,003 人の利用があった。利用人数 351,003 人の内訳は、主催事業が 41,838 人、施設提供が 309,165 人。延べ 1,290 回の主催事業を開催し、延べ 41,838 人の方にご参加いただいた。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行し、社会全体も日常を取り戻しつつあることに比例し、利用者数も増加傾向にある。生涯学習センターが大規模な施設改修工事のため、令和5年11月から令和6年3月まで休館しているが、最終的な利用状況は前年度より増える見込まれる。

- 令和5年度 特色ある事業について

生涯学習財団事務局より、以下の事業について説明を行った。

### (1) 男性限定の講座

若草公民館：書道を愉しむ～男性編～

春日公民館：やってみよう！野菜づくり

飛鳥公民館：初心者の男性家庭料理

### (2) 親子で学ぶ防災

三笠公民館：おやこ防災訓練

富雄南公民館：とみなん防災講座～夏休み避難所宿泊体験～

### (3) 子育て世代の環境について

中部公民館：家族が元気になる「パパ株 UP」のコツ

富雄公民館：学校に行きたくないに、どう寄り添う？

### (4) 外国の文化に触れ、交流する

南部公民館：みんな DE つくるスパイスカレー

登美ヶ丘南公民館：英語で国際サロン

### (5) 「こんな講座ありました」より

京西公民館：大学生と作ろう！クリスマス料理

都祁公民館：プチ田舎暮らし・都祁 一ゆったり古代米一

### (6) 家庭教育サポートネットワーク支援事業

平城西公民館：子どもの笑顔、それが私の幸せ

平城公民館：へいじょう子育て交流会

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♧:回答

委員

- ◆ 特色ある事業ということで、様々な地域の団体と連携したり、地域課題というところにクローズアップしたような講座を色々と展開して下さっていると改めて感じた。公民館での活動が、一人ひとりのその後の生活の色々な気づきのきっかけになると思う。次は、その参加した方々の中で、主体的に地域や子どもたちのために動いていこうという気持ちになってくださる方が生まれることを期待している。講座をきっかけとして自主的に仲間内の会から発展しているのはもちろんあるが、自分たちが中心となって地域課題を解決したり、解決に向けて動こうという形に結びついた例があればぜひ教えてもらいたい。

生涯学習財団事務局

- ♡ 委員がおっしゃったような事にまで繋がっているかどうか分からないが、今回紹介させていただいた講座の(6)平城西公民館「子どもの笑顔それが私の幸せ」に、育児中の方だけでなく、地域の方々やシニア世代の方にも多数参加してほしいと、公民館の職員がかなり声掛けをさせていただいた。3月に開催予定の子どもまつりの協力者を募ったところ、講座参加者も含めて現時点で8名ほど集まり、平城西子育て応援団として活動することになった。家庭教育サポートネットワーク支援事業だけにかかわらず、子育てに関するところで協力していただいていると聞いている。自分たちが主体的になって今後活動できるような、次のステップに移れるようにしていきたい。そのあたりが具体的にできている地域は実際のところ少ない状態にある。多様な他者と関わりながら連携しながら事業を作っていきたい。今後の課題として引き続き取り組んでいきたいと思う。

委員

- ◆ 主催事業は、アンケートの声を拾い上げて作り上げていかれるものなのか。そういう情報をどこからつかまれているのか。

生涯学習財団事務局

- ♡ 市民の方のニーズについては、アンケートをもちろん参考にはしているのは当然だが、アンケートだけではなくて、市民の方と関わる中でふと聞ける本音みたいなところを職員が心に留めながら、この世代の人はこういうことを求めている、こういうことをしたらもっとみんなが参加して下さるのではないかとところを拾っている部分はある。どちらかというとアンケートよりもそちらの方が大きいように思う。会話ができる関係性を普段から公民館職員が利用者の皆さんと作っているというのが大前提にある。会話の中で得られた情報やニーズみたいなものを職員として大事にして、それを種に企画している講座も多いと思う。

委員

- ◆ これからの社会教育や公民館の在り方を考えたときに、地域資源はた

くさんあるのに勿体ない。連携ができていれば、今回の活動のように活動される中で次の方たちを育てるということもできていくのかなど。そういう視点を持った公民館の在り方もこれから必要になっていくのかなと思う。まず地域を知るところから市民に声を掛け、そういう仕掛けはなにかできないものだろうか。どういうふうな仕掛けをしたら、もっと市民の方に公民館を知ってもらったり、例えば子育て中のお母さんだったら、支援団体や地域の中でできていることを知る事ができるのかなど。情報通のお母さんばかりではないので、そういうところに届くようにするにはどうしたらよいのかとふと不安になった。そのあたりも公民館の果たす役割はすごく大きいのではないかと思うがどうか。

生涯学習財団事務局 ☆ 地域では色んな団体が、子育て分野であったり、防災分野であったり、それぞれの団体の目指す分野で活動はされていると思う。ただ、その活動分野を全面に出してみんな関わってくださいと打ち出しても特に若い世代の方々は参加しづらいと思う。公民館としては色んな団体と関わりながら、まず知っていただくためには、楽しい、参加しやすい、親しみやすいを全面に出して事業を展開して、そこに参加した人が知見を得ることができるようにする。それがちょっとずつ広がって当たり前になっていくのを目指していくのが公民館としての在り方と考えている。今回紹介させていただいた講座「とみなん防災講座～夏休み避難所宿泊体験～」は地域限定の講座だったが、2倍以上の申し込みがあり、抽選をして受講していただいた。そういうことに興味のある人はたくさんいて、かといって避難所だと子どもたちも不安になったり、参加しづらいというのがあるので、ちょっと楽しい要素を入れながら、夜はそれぞれの家族同士で普段寝泊まりするような環境ではないところで寝るという体験ができるのは公民館ならではののではないかと考えている。今後も色々な地域団体や地域資源を活用し、まずは知ってもらうために参加しやすい楽しい要素のあるものを展開していけたらと考えている。

委員 ◆ 子育て世代の環境についての講座が定員割れしている中で、広報においての取り組みや、次のアプローチについて、今の考えをお聞かせいただきたい。

生涯学習財団事務局 ☆ 子育て世代の環境についての内容は、どうしても楽しい要素だけではないところがあって、人集めや広報には苦労した。中部公民館の「家族が元気になる『パパ株 UP』のコツ」については、相当チラシをまき、他の公民館のフリースペースや子育てスポットにも職員が出向き、講座の内容を説明し、ぜひ家族で来てくださいとアピールをした。そんな状況があっても、10組中6組の参加になってしまった。ただ、実際

参加してみて、よかったと言ってくれる方が多かったので、やはり必要な分野なのだと思う。財団では主催講座が終わった後に、講座の内容をまとめたものをHPで紹介させていただいている。それを次回に募集するときに付けながら具体的に内容が分かる広報に努めていきたい。また、足で稼ぐという形になるが、今後も講座の募集については、その年代の方がたくさんいらっしゃるような場所に赴いてしっかりと宣伝活動していくことを繰り返していかないといけないと考えている。

委員

- ◆ 公民館主催事業の成果や評価について、受講者数データに加えて、これをきっかけに何が生まれてきたか、この主催事業1つ1つがいかなるきっかけになっていたかが、主催講座が終わった後の展開になってくる。ここの部分の把握は難しいところがあるかと思うが、夏の公運審でも話題になっている、様々な地域課題に結び付けていくときに、その講座での経験がそれぞれの方の暮らしや地域にどう結びついているか、これからますます大事になってくるのではないかと思う。特色の把握の仕方を深めていくと今公民館で生まれつつある新しい価値の捉え方につながる。また、子ども若者の公民館利用者の偏りや固定化も課題として続いている。若者を対象にした主催事業、きっかけづくりはひとつだが、なかなか振るわないし、難しい。ただ一方で、奈良市内の公民館で頑張っている大学生や若者が、講座を手伝ってくれたり、持っている大学生の力を発揮して公民館自体を支える、担う側に回ってもらうグッドプラクティスがこの間続いている。これを継続的に色々な館で若者が活躍できる機会をどんどん作ってもらいたい。関わっている大学生にもプラスになり、各館でも喜ばれると思う。情報発信の際にぜひ関わった大学生たちのやりがいや達成感を載せてほしい。街に出て活動すると活躍の機会を求めている大学生が多い。公民館で自分たちの学んだことやスキルを発揮できるというモデルを公民館の場から発信していくとキャッチした大学生の方からもアプローチが来るのではないかと思う。その大学生たち高校生たちの声とか姿が、他のまだ見ぬ大学生利用者に届くような情報発信に可能性があると思う。

生涯学習財団事務局

- ◇ 指摘いただいたことは全て今後ぜひ生かしていきたいと思う内容。これからどこまでしていけるかなかなか難しいところもあるが、例えば講座を受けたことで今後の生活にどれだけ役に立っているかとか、その人たちの意識がどういう風に変ったかということを追っていくことであったり、若者の利用促進がこんな形であるんだよということも伝えることも狙いながら、HP等を活用し、情報発信していきたい。

委員

- ◆ 子育ての支援拠点は市内14～30くらいある。奈良市の管轄の拠点も

あれば、任意団体がその地域で開いている拠点もある。そこも連携できたらもっと広がっていくと思う。フェイスブックやインスタグラムに公民館の情報は出ているか。子育てサークルを各拠点に紹介しに回っている中で、いかにその地域の方が知らないか、生涯学習財団が託児付きの色々な講座をやっていると言うと知らなかったと回答する人が本当に多い。お母さんの頭の中に公民館がそういう主催事業をしているというところにヒットしないのかなというのもある。パパ向けの講座をしても西部と東部で全然集まりが違う。やはりニーズがその地域ですごく差があると感じる。どの館がどの講座をするのかがすごく重要。受講された方は、必ず実のあるものになっているはず。数ではなく、来た人が少なくとも喜んでくださるのが一番で、その方たちが別の方法で情報発信して下さったらいい。

生涯学習財団事務局 ☆ 奈良市生涯学習財団からの情報発信に関しては、HP とメールマガジンのみ。若い世代の方は特にラインやインスタグラムをご覧になるという声をたくさんいただいているが、財団でそのようなツールを持つ余力がない。子育てに関する情報は、奈良市の子ども未来部に申請を上げたら、SNS に掲載していただくことができる内容もある。もっと連携して載せていくことができないか今後調べていく。

委 員 ♪ 館の情報をそこで全部集約するのが財団の組織だと思うので、それぞれの館の情報を仕入れて、財団の職員では手がいっぱいのところを、大学生などの若い子が発信するというのをすれば、スムーズに楽にいくのかなと個人的に思う。

委 員 ♪ 日々公民館で学習支援をさせていただく中で、なかなか学校に行けない子たちも来てくれている。そういうご家庭の子も親も、孤立や孤独がものすごく甚だしくて、働きかけていかないとなかなか繋がっていかない。これからは大学生が担い手になる。不登校や引きこもりの子どもたちがこれから地域の担い手を必要とする。そういう子どもたちが一人でも公民館を通じて私たちと繋がるとものすごくありがたい状況になる。公民館には社会教育の専門家がいるので、その子たちが1人でも2人でも毎日通える場としてなり得るのではないかと思う。企画もしていただけたらありがたいと考えている。



○【案件2】 令和5年度公民館大会についての報告

令和5年10月31日に開催された「第70回奈良県公民館大会及び第34回奈良県社会教育研究大会合同大会」及び令和5年11月24日に開催された「第45回全国公民館研究集会兵庫大会・第70回近畿公民館大会兵庫大会」について、参加委員4名から報告書のとおり説明が行われた。

○その他

第37期委員としては本審議会が最後となるため、各委員から一言ずつ感想等をいただいた。

資 料

会議次第  
委員名簿  
令和5年度公民館事業の実施状況について  
令和5年度公民館大会についての報告